

ずっと住み続けたい まちをつくるために

住民アンケート結果報告

町では、今後のまちづくり計画の参考とするため、住民アンケートを昨年8月に行いました。

いただいた回答には、安心して暮らすための雇用の安定などを望む声が多くありました。それらの主な集計結果についてお知らせします。

全戸を対象に実施 回答率は44%

アンケート調査は、昨年8月、町内全世帯を対象に、各自治会長が調査票を配布・回収する方法で行いました。

調査票を配布した1446戸のうち、回答があったのは637戸で、回答率は44%でした。

調査票を記入した人の内訳は、無回答の人を含め男性が約5割、女性が約4割でした。

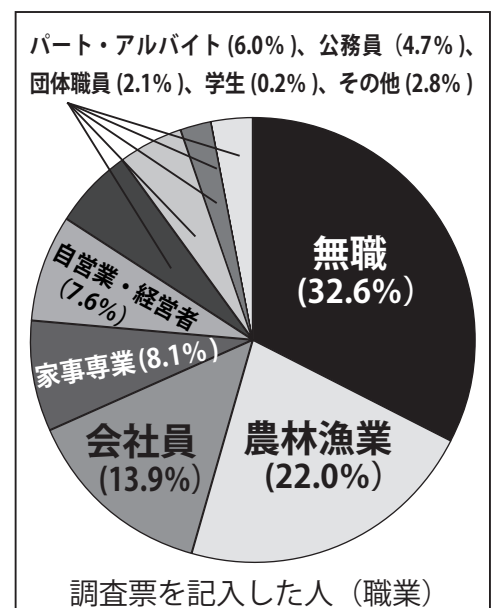
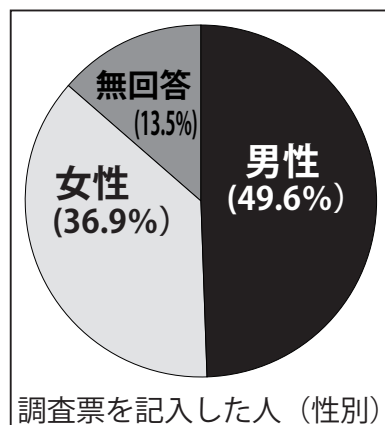
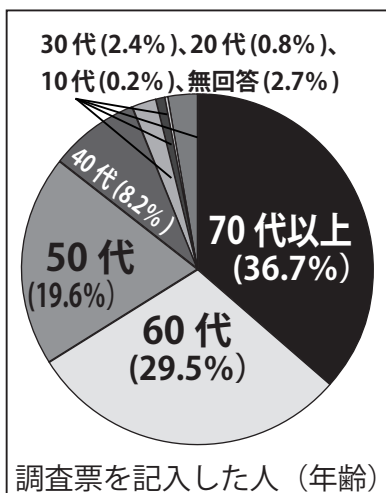
年齢では、70代以上の人が約37%と一番多く、次いで60代、50代と、中高年の人が主に回答していることがわかりました。10代から30代の若者世代では、合計しても3.4%と非常に少なく、1戸に1枚の調査票としたため、回答し

た年代にばらつきが生じたものとなりました。

回答した人の職業については、高齢者の回答者が多いためか、無職の人がおよそ3割を占めています。また、仕事をしている人の中では、農林漁業に従事している人が一番多い結果となりました。

住民アンケート集計状況

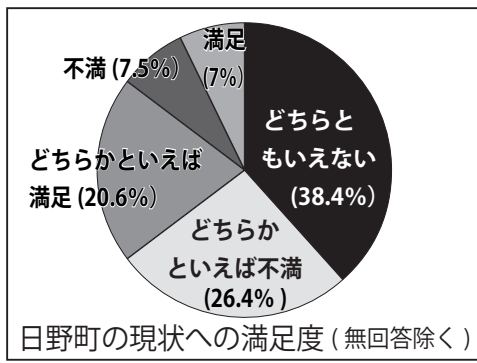
配布数	1446
回答数	637
回答率	44%



町民生活への不満が増える傾向に

この調査で、町の現状への満足度を聞いたところ、総じて低い傾向となっていることがわかりました。

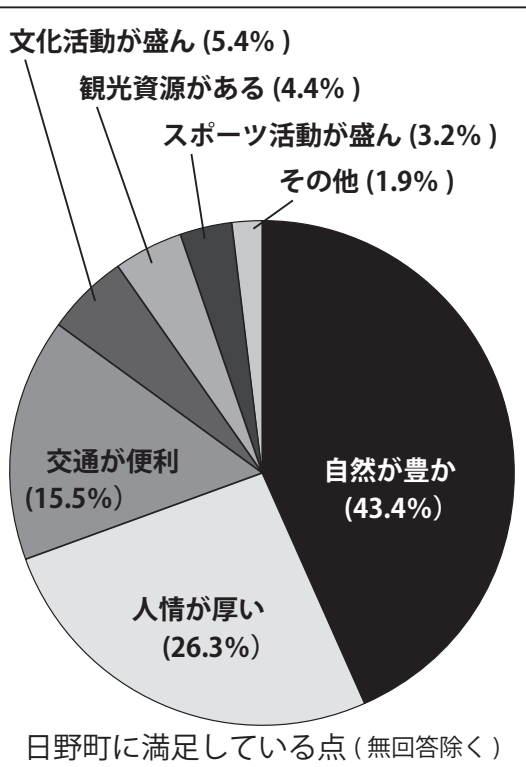
「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の割合を合わせると27・6%となりますが、前回の調査（平成13年）では32%であり、また「不満」「どちらかといえば不満」の合計は33・9%（前回は



25%)でした。町の財政難などで生活に不満を感じている人が増えていると考えられます。

豊かな自然・人情はまちの大きな財産

日野町に満足している点についての設問では、「自然が豊か」が43・4%、「人情が厚い」が26・3%と、町に古くからあるものを誇りに思っている人が多いことがわかり



ました。

逆に、不満な点では、「働けるところが少ない」「経済活動が活発でない」など、雇用環境や生活の利便性への不満が多い結果となりました。また、日野町の将来像についての質問では、「誰もが安心・安全に暮らせるまち」が最も多く（33・2%）、閉塞感が高まる社会の中で安定した生活を送りたいと願っている人が多いことがわかりました。

